

耐震診断結果の概要書

申請者	会社名等												
	代表者名												
診断者	事務所名			TEL									
	担当者		級建築士 第 号	FAX									
建物概要	(1)建物名称												
	(2)所在地		(3)用途										
	(4)構造・規模												
	造 地上 階・地下 階・PH 階 高さ m												
	架構形式		X方向:	Y方向:									
	(5)建設年												
	(6)面積		建築面積 m ² ・延べ面積 m ² ・診断対象 m ²										
	(7)階高		1階 m・基準階 m										
	(8)桁行×梁間 全長		m × m	(9)構造的特徴:下階壁抜け柱の有無、Pca屋根の有無、形状など									
	(桁行スパン×梁間スパン)		(m × m)	(例) 平面的に整形な建物、立面的にはセットバックがある 下階壁抜け柱が存在する。									
	(10)地盤		表層()・支持層()	GL m									
		長期杭支持力 KN/本	長期地耐力 KN/m ²										
(11)基礎		杭基礎	直接基礎										
現地調査結果 及び材料強度	(1)コンクリート		設計基準強度 F _c =	~	N/mm ²								
			標準偏差 σ=	~	N/mm ²								
			各階の圧縮強度(X _{mean} -1/2σ)	σ _B =	~	N/mm ²							
			診断採用強度 F _c =	~	N/mm ²								
	(2)鉄筋		主筋 (種別、径)	診断時降伏点強度 σ _y =	N/mm ²								
		帯筋 (種別、径)	@	診断時降伏点強度 σ _y =	N/mm ²								
(3)鉄骨		種別	診断時降伏点強度 σ _y =	N/mm ²									
(4)中性化深さ		平均 (mm)	・	最大 (mm)									
耐震判定指標	(1)I _{so}		(2)C _{TU} ・S _D										
	経年指標 T=												
I _s 指標値 C _{TU} ・S _D 値	階	X方向					Y方向						
		E ₀	S _D	F	I _s	C _{TU} ・S _D	判定	E ₀	S _D	F	I _s	C _{TU} ・S _D	判定
	(注) 診断値は正加力時、負加力時の小なる値 ・S造ではC _{TU} ・S _D 欄はq欄とする。												
電算ソフト						診断回数 ()							
考察	(1)建物の構造的特徴 (例) 第2種構造要素となる極脆性柱が存在する。 第2種構造要素と判定される下階壁抜け柱が存在する。 (2)診断で判明した耐震性能上の問題点 (例) X方向1.2階で耐震判定指標を下回る。 柱帯筋量が少なく、柱の靱性が乏しいため耐震性能が低い												
備考													

耐震診断結果の概要書

申請者	会社名等														
	代表者名														
診断者	事務所名										TEL				
	担当者							級建築士 第	号	FAX					
建物概要	(1)建物名称														
	(2)所在地							(3)用途							
	(4)構造・規模	地上 階・地下 階・PH 階 高さ													
		架構形式	X方向:						Y方向:						
	(5)建設年														
	(6)面積	建築面積	m ²	延べ面積	m ²	診断対象	m ²								
	(7)階高	1階	m	基準階	m										
	(8)桁行×梁間 全長	m × m		(9)構造的特徴:											
		(桁行スパン×梁間スパン)			(m × m)										
	(10)地盤	表層() ・ 支持層() GL													
		長期杭支持力 kN/本						長期地耐力 KN/m ²							
(11)基礎															
現地調査結果 及び材料強度	(1)コンクリート	設計基準強度	F _c =	~									N/mm ²		
		標準偏差	σ =	~									N/mm ²		
		各階の圧縮強度(X _{mean} -1/2σ)	σ _B =	~									N/mm ²		
		診断採用強度	F _c =	~									N/mm ²		
(2)鉄筋	主筋 (種別、径)							診断時降伏点強度	σ _y =					N/mm ²	
	帯筋 (種別、径)							診断時降伏点強度	σ _y =					N/mm ²	
(3)鉄骨	種別							診断時降伏点強度	σ _y =					N/mm ²	
(4)中性化深さ	平均 (mm)							最大 (mm)							
構造耐震指標	(1)GIs														
GIs指標値 Qu/α・Qun 値	劣化係数 U= , じん性能補正係数 α _d = , モデル化係数 α _m = 重要度係数 I=														
	階	X方向						Y方向							
		Qu/P	α	Ds	GIs	Qu/α・Qun	判定	Qu/P	α	Ds	GIs	Qu/α・Qun	判定		
(注) 診断値は正加力時、負加力時の小なる値															
電算ソフト							診断次数 (官庁施設の総合耐震診断・改修基準)								
考察	(1)建物の構造的特徴														
	(2)診断で判明した耐震性能上の問題点														
備考															

耐震診断結果の概要書

申請者	会社名等								
	代表者名								
診断者	事務所名					TEL			
	担当者			級建築士 第 号		FAX			
建物概要	(1)建物名称								
	(2)所在地			(3)用途					
	(4)構造・規模		造 地上 階・地下 階・PH 階					高さ	m
			架構形式	X方向:		Y方向:			
	(5)建設年								
	(6)面積		建築面積 m ² ・延べ面積 m ²		診断対象		m ²		
	(7)階高		1階 m・基準階		m				
	(8)桁行×梁間 柱ピッチ		m × m		(9)構造的特徴: (例) 屋根は鋼板瓦棒葺きで片流れとなっている。				
	(10)地盤		表層()・支持層()		GL		m		
			長期杭支持力 KN/本		長期地耐力		KN/m ²		
	(11)基礎		杭基礎		直接基礎				
現地調査結果 及び材料強度	(1)コンクリート		設計基準強度 F _c =		~		N/mm ²		
			標準偏差 σ=		~		N/mm ²		
			各階の圧縮強度(X _{mean} -1/2σ)		σ _B =		~		
			診断採用強度 F _c =		~		N/mm ²		
	(2)鉄筋		主筋 (種別、径)		診断時降伏点強度 σ _y =		N/mm ²		
			帯筋 (種別、径) @		診断時降伏点強度 σ _y =		N/mm ²		
(3)基礎の健全度									
(4)使用木材									
(5)接合部									
(6)腐朽・蟻害									
上部構造評点	判定値			構造評点 = 保有する耐力(edQu) / 必要耐力(Qr) ≥ 1.0					
診断結果	方向	階	壁の耐力 Qu (kN)	配置低減 eKfl	劣化低減 dK	保有耐力 edQu (kN)	必要耐力 Qr (kN)	評点	判定
	X	3							
		2							
		1							
	Y	3							
		2							
1									
電算ソフト						診断法 ()			
構造的特徴									
備考									

		分類	対 策	選択	注意事項	
		総合評価	地盤	よい・普通		
悪い						
非常に悪い (埋立地、盛土、 軟弱地盤)	表層の地盤改良を行っている 杭基礎である					
特別な対策を行っていない その他						
地形	平坦・普通					
	がけ地・急斜面		コンクリート擁壁			
			石積み			
			特別な対策を行っていない その他			
基礎	鉄筋コンクリート		健全			
			ひび割れが生じている			
	無筋コンクリート		健全			
			軽微なひび割れが生じている			
		ひび割れが生じている				
		足固めあり 足固めなし				
	その他 (ブロック基礎等)					
上部構造評点のうち 最小の値		評点	判 定	選択		
		1.5以上	倒壊しない			
		1.0以上～1.5未満	一応倒壊しない			
		0.7以上～1.0未満	倒壊する可能性がある			
		0.7未満	倒壊の可能性が高い			
その他の 注意事項						
考察						

耐震改修計画の概要書

申請者	会社名等																
	代表者名																
診断者 (補強設計者)	事務所名		TEL														
	担当者	級建築士 第 号	FAX														
建物概要	(1)建物名称																
	(2)所在地		(3)用途														
	(4)構造・規模		造 地上 階・地下 階・PH 階	高さ m													
	架構形式		X方向:	Y方向:													
	(5)建設年																
	(6)面積		建築面積 m ² ・延べ面積 m ² ・診断対象 m ²														
	(7)階高		1階 m・基準階 m														
	(8)桁行×梁間 全長 (桁行スパン×梁間スパン)		m × m (m × m)	(9)構造的特徴:下階壁抜け柱の有無、Pca屋根の有無、形状など (例) 平面的に整形な建物、立面的にはセットバックがある 下階壁抜け柱が存在する													
	(10)地盤		表層()・支持層()	GL m													
			長期杭支持力 KN/本・長期地耐力	KN/m ²													
	(11)基礎		杭基礎	直接基礎													
現地調査結果 及び材料強度	(1)コンクリート		設計基準強度 $F_c = \sim$ N/mm ²														
			標準偏差 $\sigma = \sim$ N/mm ²														
			各階の圧縮強度($X_{mean} - 1/2\sigma$) $\sigma_B = \sim$ N/mm ²														
			診断採用強度 $F_c = \sim$ N/mm ²														
	(2)鉄筋		主筋 (種別、径)	診断時降伏点強度 $\sigma_y =$ N/mm ²													
		帯筋 (種別、径) @	診断時降伏点強度 $\sigma_y =$ N/mm ²														
(3)鉄骨		種別	診断時降伏点強度 $\sigma_y =$ N/mm ²														
(4)中性化深さ		平均 (mm)	最大 (mm)														
診断で判明した耐震性能上の問題点																	
耐震判定指標	(1)Iso		(2) $C_{TU} \cdot S_D$														
補強計画	(1)補強方針		(3)補強壁・鉄骨ブレース等の枚数														
			階	X方向 Y方向													
	(2)補強工法 X方向 : Y方向 :																
電算ソフト			診断回数 ()														
Is指標値 $C_{TU} \cdot S_D$ 値	経年指標 T=																
	階	X方向								Y方向							
		補強前				補強後				補強前				補強後			
		2次				2次				2次				2次			
		Is	F	S _D	C _{TU} ・S _D	Is	F	S _D	C _{TU} ・S _D	Is	F	S _D	C _{TU} ・S _D	Is	F	S _D	C _{TU} ・S _D
(注) 診断値は正加力時、負加力時の小なる値 ・S造ではC _{TU} ・S _D 欄はq欄とする。																	
備考																	

耐震改修計画の概要書

申請者	会社名等																	
	代表者名																	
診断者 (補強設計者)	事務所名			TEL														
	担当者			FAX														
建物概要	(1)建物名称																	
	(2)所在地			(3)用途														
	(4)構造・規模		造 地上 階・地下 階・PH 階 高さ m															
	架構形式		X方向:	Y方向:														
	(5)建設年																	
	(6)面積		建築面積 m ² ・延べ面積 m ² ・診断対象 m ²															
	(7)階高		1階 m・基準階 m															
	(8)桁行×梁間 全長 (桁行スパン×梁間スパン)		m × m (m × m)	(9)構造的特徴:下階壁抜け柱の有無、Pca屋根の有無、形状など (例) 平面的に整形な建物、立面的にはセットバックがある 下階壁抜け柱が存在する														
	(10)地盤		表層()・支持層() GL m 長期杭支持力 KN/本・長期地耐力 KN/m ²															
	(11)基礎		杭基礎 直接基礎															
現地調査結果 及び材料強度	(1)コンクリート		設計基準強度 Fc = ~ N/mm ² 標準偏差 σ = ~ N/mm ² 各階の圧縮強度 (X _{mean} -1/2σ) σB = ~ N/mm ² 診断採用強度 Fc = ~ N/mm ²															
	(2)鉄筋		主筋 (種別、径) 診断時降伏点強度 σy = N/mm ² 帯筋 (種別、径) @ 診断時降伏点強度 σy = N/mm ²															
	(3)鉄骨		種別 診断時降伏点強度 σy = N/mm ²															
	(4)中性化深さ		平均 (mm) ・ 最大 (mm)															
診断で判明した耐震性能上の問題点																		
補強目標	(1) q_s																	
補強計画	(1)補強工法		(2)補強壁・鉄骨ブレース等の枚数															
			階	X方向 Y方向														
電算ソフト	診断回数 (官庁施設の総合耐震診断・改修基準)																	
Is指標値 C _{TU} ・S _D 値	劣化係数 U = , じん性能補正係数 α _d = 下表 , モデル化係数 α _m = 重要度係数 I =																	
			X方向								Y方向							
			階	Qu/P	α _d	α	D _s	G _I s	Qu/α・Q _{un}	判定	階	Qu/P	α _d	α	D _s	G _I s	Qu/α・Q _{un}	判定
	補強前																	
	補強後																	
(注) 診断値は正加力時、負加力時の小なる値																		
考察																		

耐震改修計画の概要書

申請者	会社名等								
	代表者名								
診断者	事務所名					TEL			
	担当者			級建築士 第 号		FAX			
建物概要	(1)建物名称								
	(2)所在地			(3)用途					
	(4)構造・規模		造 地上 階・地下 階・PH 階		高さ		m		
	架構形式		X方向:		Y方向:				
	(5)建設年								
	(6)面積		建築面積 m ² ・延べ面積 m ² ・診断対象 m ²						
	(7)階高		1階 m・基準階 m						
	(8)桁行×梁間 柱ピッチ		m × m		(9)構造的特徴: (例) 屋根は鋼板瓦棒葺きで片流れとなっている。				
	(10)地盤		表層()・支持層()		GL		m		
			長期杭支持力 KN/本・長期地耐力		KN/m ²				
(11)基礎		杭基礎		直接基礎					
現地調査結果 及び材料強度	(1)コンクリート		設計基準強度 F _c =		~		N/mm ²		
			標準偏差 σ=		~		N/mm ²		
			各階の圧縮強度(X _{mean} -1/2σ) σ _B =		~		N/mm ²		
			診断採用強度 F _c =		~		N/mm ²		
	(2)鉄筋		主筋 (種別、径)		診断時降伏点強度 σ _y =		N/mm ²		
			帯筋 (種別、径) @		診断時降伏点強度 σ _y =		N/mm ²		
(3)基礎の健全度									
(4)使用木材									
(5)接合部									
(6)腐朽・蟻害									
上部構造評点	判定値		構造評点 = 保有する耐力(edQu) / 必要耐力(Qr) ≥ 1.0						
補強計画	(1)補強工法			(2)補強壁・筋交い等の枚数					
			階	補強項目	X方向	Y方向	備考		
	X		3	構造用合板					
			2	たすき掛け筋交い					
	Y		3	構造用合板					
2			たすき掛け筋交い						
		1	構造用合板						
		1	たすき掛け筋交い						
補強結果	方向	階	壁の耐力 Qu (kN)	配置低減 eKfl	劣化低減 dK	保有耐力 edQu (kN)	必要耐力 Qr (kN)	評点	判定
	X	3							
		2							
		1							
	Y	3							
2									
1									
電算ソフト					診断法 ()				
考察									